

主な掲載記事一覧(H31.1～R1.5)

【新聞】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	ページ	主要記事
H30.12.30	アジアの木版画を紹介 アーツ前橋で2月から	桐生タイムス 夕刊	14	アジアの木版画展
H31.1.12	県女大生、アーツで映画上映や討論会	上毛新聞	14	表現の森継続事業
H31.1.18	韓国民主化に貢献した木版画運動	東洋経済日報	8	アジアの木版画展
H31.1.19	アーツ前橋に栄誉 都内 地域創造大賞の表彰式	上毛新聞	1	アーツ前橋全般
H31.1.21	【プレゼンター】役割増す地方美術館 アーツ前橋館長 住友文彦氏	上毛新聞	1	アーツ前橋全般
H31.1.21	【プレゼンター】(1面から続く)群馬から文化創ろう	上毛新聞	28	アーツ前橋全般
H31.1.21	県内で美術との出会い 楽しむ(太田市美術館・図書館学芸員 小金沢智)	産経新聞	22	アーツ前橋全般
H31.1.22	【主な企画展 22日～2月4日】アーツ前橋 闇に刻む光	埼玉新聞	8	アジアの木版画展
H31.1.31	36年ぶり米から里帰り 画家・高畑さんの油彩画 2日からアーツ前橋で公開	上毛新聞	20	近藤嘉男展
H31.2.2	近現代アジア木版画400点 反戦、反権力「エネルギー感じて」	読売新聞	32	アジアの木版画展
H31.2.3	木版画で見るアジア民主化 来月24日までアーツ前橋で企画展	東京新聞	22	アジアの木版画展
H31.2.8	【文化 美術評】紙一重の早業「闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s-2010s」展 榎木野衣	東京新聞	7	アジアの木版画展
H31.2.9	【アートの地平から】アジアの木版画の訴求力 住友文彦	毎日新聞	13	アジアの木版画展
H31.2.15	【美術】闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s	しんぶん赤旗	9	アジアの木版画展
H31.2.15	◆展示について学び進退で表現しよう「アーツ」企画展 運動企画 前橋で3月21日まで	朝日ぐんま	2	前橋身体論早春ゼミナール2019
H31.2.19	時代の声映す アジア木版画 アーツ前橋	上毛新聞	20	アジアの木版画展
H31.2.20	「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」-上 表現主義 若き作家に影響 (アーツ前橋学芸員 五十嵐純)	読売新聞	28	アジアの木版画展
H31.2.21	「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」-中 警官との衝突 鋭い線で (アーツ前橋学芸員 五十嵐純)	読売新聞	30	アジアの木版画展
H31.2.23	「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」-下 閉ざされた場の希望描く (アーツ前橋学芸員 五十嵐純)	読売新聞	32	アジアの木版画展
H31.2.22	【文化紀行】「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」SNSの先駆け、メディアとしての木版画にスポット アーツ前橋学芸員 五十嵐 純さん	朝日ぐんま	3	アジアの木版画展
H31.3.1	前橋出身のアーティスト 高畑早苗さん アーツ前橋で油彩画「危険と歓楽の夜」が公開中	朝日ぐんま	6	近藤嘉男展
H31.3.1	【いざない】民衆の悲憤映す白と黒 長野出身 上野誠の作品も	信濃毎日新聞	11	アジアの木版画展
H31.3.3	【文化】圧政に抗う意思示す 美術展「闇に刻む光アジアの木版画運動」	しんぶん赤旗 日曜版	29	アジアの木版画展
H31.3.8	闇に刻んだ 木版画運動 前橋で展示 田中正造の直訴描いた作品も	朝日新聞	25	アジアの木版画展
H31.3.12	【学問 文化】民衆のたたかう武器の変遷(アライ=ヒロユキ)	しんぶん赤旗	10	アジアの木版画展

主な掲載記事一覧(H31.1～R1.5)

【新聞】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	ページ	主要記事
H31.3.14	【三山春秋】	上毛新聞	1	近藤嘉男展
H31.3.18	激動の20世紀 アジアの木版画 情報拡散 役割担う 前橋で企画展	毎日新聞	24	アジアの木版画展
H31.3.18	【ぐんまアート散歩】地元の作家の実像 広く伝える	産経新聞	20	近藤嘉男展
H31.3.14	外遊の影響示す 近藤嘉男企画展 アーツ前橋	東京新聞	24	近藤嘉男展
H31.3.30	アーツにウッドデッキ 前橋市とYKK AP	上毛新聞	24	アーツ前橋全般
H31.3.4	やなぎみわ10年ぶり個展一機械が演じる生と死	日本経済新聞	14	やなぎみわ展
H31.4.3	ウッドデッキでくつろいで 前橋 市と建材メーカーが設置 持ち込みOK 活性化に期待	東京新聞		アーツ前橋全般
H31.4.4	【ぱれっと 美術館・博物館】やなぎみわ展 神話機械	上毛新聞	6	やなぎみわ展
H31.4.12	アーツ前橋前に新ウッドデッキ 市とYKKAP	読売新聞	28	アーツ前橋全般
H31.4.12	やなぎみわ展 神話機械	読売新聞	28	やなぎみわ展
H31.4.17	機会が演じる劇 やなぎみわさん、高専生と協力 アーツ前橋 展示と公演	上毛新聞	23	やなぎみわ展
H31.4.19	写真、劇で神話の世界 やなぎみわさん個展 きょうからアーツ前橋	上毛新聞	25	やなぎみわ展
H31.4.19	10年ぶり やなぎみわ展 きょうから前橋 写真作品、機械による演劇	読売新聞	30	やなぎみわ展
H31.4.23	「やなぎみわ展 神話機械」上 50年後 理想の姿描く	読売新聞	28	やなぎみわ展
H31.4.25	「やなぎみわ展 神話機械」下 生と死の物語に想いませ	読売新聞		やなぎみわ展
H31.4.26	代表作や新作 10年ぶりの大規模個展 やなぎワールド炸裂	朝日ぐんま	3	やなぎみわ展
H31.4.13	【アートの地平から】分断を乗り越える思想	毎日新聞	21	アーツ前橋全般
H31.4.30	神話世界 機械仕掛け 自動演劇空間を新作発表	上毛新聞	6	やなぎみわ展
2019年5月9日	やなぎみわ展の世界観 群馬高専生が形に「神話機械」製作に「ロボコン」力で協力	朝日新聞	19	やなぎみわ展
2019年5月11日	アーツ前橋 やなぎみわ展 機械が神話を自動上演 群馬高専など5校と製作	毎日新聞	22	やなぎみわ展
2019年5月17日	【文化紀行】やなぎみわ展 神話機械」アーツ前橋 学芸員 辻 瑞生さん	朝日ぐんま	3	やなぎみわ展
2019年5月22日	ロボットと俳優が共演 やなぎみわさん演劇	上毛新聞	18	やなぎみわ展
2019年5月30日	美術館連絡協議会特集 異分野と美術 つなぐ場に やなぎみわ展 神話機械	読売新聞	18	やなぎみわ展
2019年6月10日	【アートの扉】やなぎみわ 神話機械 人間不在の演劇空間	毎日新聞	3	やなぎみわ展

主な掲載記事一覧(H31.1～R1.5)

【雑誌・冊子】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	法人・団体名等	ページ	主要記事
H31.2.18	文化の話題 日本とアジアつなぐ草の根の木版画運動	前衛 3月号	日本共産党中央委員会	158	アジアの木版画展
H31.3.25	成相肇のやっかいもっかい てんらんかい「ほる、する、つながる」	芸術新潮 2019年4月号	新潮社	140	アジアの木版画展
H31.3.25	PICK UP EXHIBITION/やなぎみわ展 神話機械	芸術新潮 2019年4月号	新潮社	141	やなぎみわ展
H31.5.20	日本史と女性性に肉薄してきた作家の全貌 やなぎみわ展 神話機械	Figaro japon	株式会社cccメディアハウス	123	やなぎみわ展
H31.5.28	kiki's ART TRIPPER/やなぎみわ展 神話機械	NYLON JAPAN	カエルム(株)	82	やなぎみわ展
H31.4.25	PICK UP EXHIBITION/やなぎみわ展 神話機械	芸術新潮 2019年5月号	PICK UP EXHIBITION	157	やなぎみわ展
H31.5.25	PICK UP EXHIBITION/やなぎみわ展 神話機械	芸術新潮 2019年6月号	PICK UP EXHIBITION	141	やなぎみわ展
H31.4.30	やなぎみわ展 神話機械	美術展&美術館びあ 2019	びあ株式会社	66	やなぎみわ展
H31.4.20	展覧会情報/やなぎみわ展 神話機械	月刊美術 2019 5月号	サンアート	133	やなぎみわ展
H31.6.1	クリエイティブニュース EXHIBITIONS/やなぎみわ展 神話機械	ブレーション6月号 707号 JUNE.2019	(株)宣伝会議	14	やなぎみわ展

主な掲載記事一覧(H31.1～R1.5)

【ネット】

情報掲載日	掲載媒体名	法人・団体名等	主要記事
H31.1.29	Web版美術手帳 Exhibitions	(株)美術出版社	アジアの木版画展
H31.1.18	ART iT	(株)アートイト	アジアの木版画展
H31.2.1	アーツスケープ	大日本印刷(株)	アジアの木版画展
H31.2.4	美術手帳	(株)美術出版社	アジアの木版画展
H31.2.19	internet museum	インターネットミュージアム	アジアの木版画展
H31.2.4	ぐんラボ	朝日印刷工業(株)	アジアの木版画展
H31.2.2	読売新聞オンライン	朝日印刷工業(株)	アジアの木版画展
H31.2.4	赤利根	赤利根	アジアの木版画展
H31.2.3	東京新聞ウェブ	東京新聞(株)	アジアの木版画展
H31.3.8	産経新聞 THE SANKEI NEWS	(株)産経新聞社	アジアの木版画展
H31.2.26	朝日新聞デジタル	(株)朝日新聞	アジアの木版画展
H31.1.19	WEBDICE	WEBDICE	アジアの木版画展
H31.4.19	Web版美術手帳 Exhibitions	(株)美術出版社	やなぎみわ展
H31.4.19	ぐんラボ	朝日印刷工業(株)	やなぎみわ展
H31.4.19	internet museum	インターネットミュージアム	やなぎみわ展
H31.4.19	まなびねっとぐんま	群馬県	やなぎみわ展
H31.4.19	artscape	大日本印刷(株)	やなぎみわ展
H31.6.1	artscape	大日本印刷(株)	やなぎみわ展
H31.3.22	artlogue	artlogue	やなぎみわ展
H31.4.19	katycom	katycom	やなぎみわ展
H31.4.19	artgene	artgene	やなぎみわ展
H31.6.8	ぐんま演劇商店街	ぐんま演劇商店街	やなぎみわ展
H31.4.19	michi	michi	やなぎみわ展
H31.4.19	美術館連絡協議会	美術館連絡協議会	やなぎみわ展
H31.4.19	イベントまえばし igoo	イベントまえばし igoo	やなぎみわ展
H31.4.19	美術展ナビ	美術展ナビ	やなぎみわ展
H31.4.19	This is Media	This is Media	やなぎみわ展
H31.4.19	障がい者dB	障がい者dB	やなぎみわ展
H31.4.19	赤利根	赤利根	やなぎみわ展
H31.4.19	WEBDICE	webDICE	やなぎみわ展
H31.4.19	Jタウンネット 群馬県	Jタウンネット 群馬県	やなぎみわ展

主な掲載記事一覧(H31.1～R1.5)

【ネット】

情報掲載日	掲載媒体名	法人・団体名等	主要記事
H31.4.19	マチパブ	マチパブ	やなぎみわ展
H31.4.19	Mapionニュース	Mapionニュース	やなぎみわ展
H31.4.19	MusCa	MusCa	やなぎみわ展
H31.4.28	現代メディア	講談社	やなぎみわ展
2019年5月28日	madamefigaro.jp	(株)cccメディアハウス	やなぎみわ展
2019年6月11日	展覧会と合わせて楽しみたい アーツ前橋	美術館連絡協議会	やなぎみわ展

【テレビ・ラジオ】

情報掲載日	掲載媒体名	法人・団体名等	主要記事
H31.3.14	NHK 首都圏ニュース	NHK前橋放送局	アジアの木版画展
H31.3.16	まえばしCITYエフエム	まえばしCITYエフエム	アジアの木版画展
H31.4.24	POTLUCK	FM群馬	やなぎみわ展
2019年5月9日	ニュースJust6	群馬テレビ	やなぎみわ展
2019年5月9日	ニュースeye8	群馬テレビ	やなぎみわ展
2019年5月17日	ほっと群馬640	NHK前橋放送局	やなぎみわ展
2019年6月9日	日曜美術館 アートシーン	NHKエデュケーショナル	やなぎみわ展

役割増す地方美術館

バブル経済崩壊後、空洞化した地方都市の中心市街地には、にぎわいの回復を目的に美術館など文化芸術施設ができた。地域を巻き込んだプロジェクトや地方から文化の発信に取り組むアーツ前橋もその一つだ。右肩上がりの成長が見込めない日本では、経済力でなく地域社会の文化的な魅力を高めることが活性化につながるとみる。



アーツ前橋館長 住友 文彦氏



世界は美術の価値を普遍的なものとして考えなくなってきた。例えば、ミケランジェロやピカソがすごいというのは西洋で作られた価値観。それを皆ありがたいと思ってきた。教科書にも載り、日本に作品が

来れば行列になる。今は西洋以外の文化の価値がきちんと大切にされるようになってきている。国内でも地域独自の文化を認めていく方向。誰かが価値を作ってくれるという考えを脱し、自ら人生や記憶に結び付けて「これは大事。価値がある」というものを見つける主体性が必要だ。

*都市と地方のさま

さまざまな美術館・芸術施設などで、約20年間美術展の企画をしてきた。地方美術館の持つ役割は重要さを増していると感じる。

都市の美術館は集客施設だ。観光客は多いが、相手にするコミュニティがない。芸術文化と言えども消費されていく面がある。六本木など都心に多くの美術

館ができたとき、昔からの店はどんどんなくなつた。おいしくて質が高くて、家賃が上がれば消えてしまう。経済の論理の方が強い。そつた場所で美術館をやっていくことが良いことではないとの思いもある。

一方、地方の美術館はアーツで言えば4分の3が地元の来場者だ。その人たちが繰り返し来てくれるように、顔が見える運営をしていく必要がある。地域の美術館は、芸術に関心のある人たちが知識や経験を増やしていくための場所として運営していく教育普及的な役割が大きくなっていく。ローカルな芸術の価値をどう伝えるのが重要だ。

28面へ

◆ 2019年1月21日(月)

◆ 上毛新聞

1面

記事名: 【プレゼンター】役割増す地方美術館 アーツ前橋館長 住友文彦氏

備考:

36年ぶり米から里帰り

画家・高畑さんの油彩画

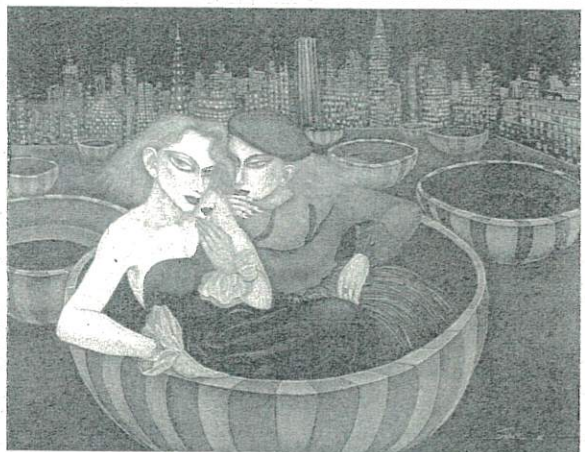
米国で発表した作品が36年ぶりに里帰り。前橋市出身のアーティスト、高畑早苗さん（東京都）が1982年に制作した油彩「危険と歓楽の夜」（116.7センチ×91センチ）が、所有していた米国人女性の遺族から同市のアーツ前橋に寄贈された。パリやニューヨークで道を切り開いてきた高畑さんが強く生きる女性像を投影した作品。2日から同館1階で初公開される。

2日からアーツ前橋で公開

高畑さんは渋谷女子高卒業後の77年、画業を志して渡仏。81年からは米国で腕を磨いた。間もなくニューヨークの画廊での個展が決まり、一時帰国中の前橋で「危険と歓楽の夜」を制作。キューバ人の親友と自身をモデルに、前橋市中央児童遊園「るなはあく」のコーヒーカープの乗り物で遊ぶさしびやかな夜景を重ね合わせた。



この作品を使った個展の広告を見た米カンザスティ在住のアン・コーエンさんが、現物を見る前に購入した。20代の女性作家が画廊に作品を扱ってもらったことすら異例と言われた時代。「アンさんが幕を開けてくれた」という個展は成功を収めた。



アーツ前橋で公開される「危険と歓楽の夜」（1982年）＝高畑さん提供

「一度売れた作品が戻ってくることはまずない（高畑さん）が、コーエンさんが2017年2月に死去した後、遺族や代理人から遺志を継いで美術館に作品を寄贈したい」と連絡があった。高畑さんはアーツ前橋での収蔵を希望し、昨年3月に寄贈された。

保存状態は良好で、同館の住友文彦館長は「高畑さんが女性としてのアイデンティティーとどう向き合ったかがよく分かる作品。るなはあくのコーヒーカープのイメージが描かれ、当館で持つのにふさわしい」と

前橋市中心街に設置された「太陽の鐘」を背にする高畑さん

評価する。

画家を目指す上で、岡本太郎から大きな影響を受けたという高畑さん。前橋では昨年、岡本太郎の作品「太陽の鐘」が広瀬川沿いに設置され、アーツ前橋で大規模な企画展も開かれた。女性性が自由に生きるのが困難だった1970年代、太郎の思想が背中を押してくれ

た。子どもが宇宙に向かって手足を広げる太陽の鐘のように、前橋の少年少女も勇気を持って人生に挑んでほしい」と願う。

高畑さんは「二度と見ることはないと思っていた作品が米国から戻り、太郎のスピリットが響く前橋で展示されるのは不思議な縁を感じる」と話している。

◆ 2019年1月31日(木)

◆ 上毛新聞

20 面

記事名：36年ぶり米から里帰り 画家・高畑さんの油彩画 2日からアーツ前橋で公開

備考：

アーツ前橋「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路」

美術館の肝はコレクション（収蔵品）である。エントランスになるなど注目されるのは往々にして華々しい企画展であるもの、それらを構成する作品も、どこかの美術館・企業・個人などが日々大切に収蔵・保管・管理しているものだ。そして特に公立美術館では、美術作品をはじめとする文化財を、市民共有の財産であり、未来に継承すべきものと考えている。だから、常設展やコレクション展といわれる収蔵品の展示を鑑賞することとは、その美術館がどのような文化を現在そして未来のために検証し、伝えようとしているのか、そのビジョンの一端であり先端に触れることにはかならない。



アーツ前橋（前橋市千代田町）で開催中の「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路」は、前橋市出身の洋画家、近藤嘉男（1916〜79年）に焦点をあてた展覧会だ。5回の渡欧を行ったという生涯に注目し、同館収蔵作品を中心に関係機関から借用した資料もまじえて画業を検証、紹介している。

関連付けられて展示されている画家の高畑早苗と南城一夫の作品も含め、資料も合わせて20点という展示数は決して多くない。けれども、一点二点に丁寧な解説のつけられた展示は、近藤嘉男という地

地元の作家の実像 広く伝える

近藤嘉男「港のマリア」1950年
油彩・キャンバス、アーツ前橋蔵



「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路」は24日まで、水曜休。午前11時～午後7時（入館は午後6時半まで）。無料。

元の作家を市民に広く知ってもらおうとする確かな意志を感じさせ、引き込まれる。作品とともに目を通せば、画業はもちろんだそれ以外の側面（生活や人となり）までも知ることができるとなる。

たとえば、2度目の渡欧の理由として書かれている「一ツは懸命に顧みてきた家庭の問題に見切りをつける契機として。二つ目は慢性的に服用していた睡眠薬とタバコを断つて心身の健康を取り戻す契機として。そして、何もかも忘れて絵画制作に専念するための契機として」という解説は、画家である前に私たちが同様の土地で暮らす生活者であった近藤嘉男という人間の素顔をイメージさせる生々しさがある。

（太田市美術館・図書館学芸員 小金沢智）

記事名: アーツ前橋「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路」	頁: 20 (2頁)
掲載紙: 産経新聞	発行日: 31.3.18 (平成30年度)
備考:	

激動の20世紀 アジアの木版画で

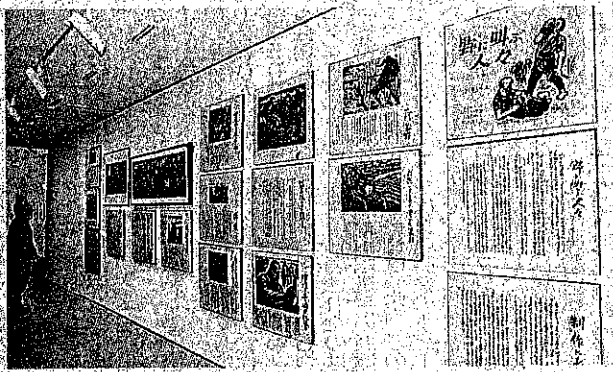
植民地からの独立や民主化、反戦―激動の20世紀にアジア各地で起きた数々の政治・社会運動で、大きな役割を果たしたのが木版画だ。民衆の苦境や社会の問題を描き出した木版画は、何枚も刷ることや情報を広く遠くまで行き渡らせることができた。その役割に注目した企画展「闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s-2010s」が24日まで、前橋市十代田町のアーツ前橋で開かれている。

【鈴木敦子】

情報拡散 役割担う 前橋で企画展



作品複製できるのが版画の魅力だが、中国の蘇味煊が台湾の二二八事件（1947年）を描いた「恐怖の検査」は世界でこの一枚しか残っていないという貴重な前橋中...



足尾銅山鉱毒事件をテーマにした小口一郎の作品「野に叫ぶ人々」

木版画は板と小刀があれば作成でき、安価に複製できる。その簡便さや、黒と白の2色でも力強く表現できることから、アジア各地で人気を集めた。通信手段が今ほど発達していなかった時代、木版画は連帯するために情報を拡散する「メディア」としての機能を担った。現代のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）にも似た役割を果たした。企画展では、中国やインドネシア、ベトナム、フィリピンなど各国の近現代史に沿った作品が展示されている。



935年ごろに中国で発行されていた雑誌「現代版画」（左奥は学芸員の五十嵐純さん）

る学生や市民を軍が武力で制圧し、多くの犠牲者を出した光州事件（1980年）をテーマにしたホン・ソンダムさんの「五月」は、さまざまな場面を描いた5点が並ぶ。激しい銃撃戦や犠牲者を悼む

家族の姿など悲惨な光景のほか、食べ物を分け合ったり、献血に協力したりと、戦闘の裏で共同体を形成する

市内の様子も描かれている。「五月」がこれほどの枚数で一堂に会するのは珍しいという。

国内の版画では、足尾銅山鉱毒事件をテーマにした小口一郎の作品群がひときわ目を引く。日本最初の公書に苦しんだ民衆の姿を後世に伝えるために、60年代に制作された。また、木版画運動に関連して、インドネシアの現代アーティスト、ト・テイタ・サリナさんの「The Great Earthquake」も展示されている。

午前11時～午後7時（水曜休館）。入館料は一般500円▽学生は150円以上300円▽高校生以下無料。今回の企画展では特別に、前橋市内の日本語学校に在学している外国人留学生は無料。「国際人権差別撤廃デー」の21日も観覧無料になる。

毎日新聞

3a 木版画展	頁: 24	群馬
発行日: 31.3.18 (平成30年度)		

機械が演じる劇

やなぎみわさん、高専生と協力



「やなぎみわ展 神話機械」を前にマシンの調整をする美術家のやなぎみわさん(右から2人目)と群馬高専の学生ニアーツ前橋

アーツ前橋 展示と公演

ロボットが「俳優」として登場する演劇ができないか。そんな計画が、美術家で演劇演出家としても活躍するやなぎみわさんと、群馬高専などによって進められている。5月17、18両日にアーツ前橋(前橋市千代田町)で、人とロボットがコラボしてシエイクスピア作品の一場面の上演を目指している。ロボットの組み立てや試運転が16日、同所で行われた。

「動きの時間を少し長め」せて噴きの動きを表現するにして」。手足をばたつか一群馬高専のロボット「のた

うちマシン「メルポメネー」の動き方について、やなぎさんが細かく指示を出す。そのイメージ通りに動くよう、群馬高専の学生がロボットのセッティングやプログラムの修正を繰り返した。

同校機械工学科15年の菅原達弥さん(19)は、「完成形が見えにくく正解が分からない中での作業」と難しさを口にしているが、「やなぎさんか、いいね」と言っ

てもらった」とうれしそう

だ。ロボットによる演劇計画は「モバイル・シアター・プロジェクト」。同校などが開発し、プログラム通りに動くロボット4台を使い、ロボットだけの舞台と、人とコラボするパフォーマンス舞台「MM」の2種類のがフォーマンズが予定されている。

MMでは、シエイクスピアの「ハムレット」から着想を得て、やなぎさんが演出を手掛ける作品を、ロボットと人の俳優がコラボして演じるという。

ロボットとコラボする発想は、演劇プロジェクトに携わるやなぎさんが、屋外イベントなどで悪天候により、思い通りに進まない舞台上に直面したことがきっかけ。「人間の意思で完全にコントロールできて、エンドレスに繰り返されるもの

を作ったかった」という。2017年から準備を進めてきた。

「モバイル・シアター・プロジェクト」は19日、写真作品などを展示する「やなぎみわ展 神話機械」と同時に、アーツ前橋で始

車に2度はねられ
48歳女性が重傷

前橋

16日正午ごろ、前橋市千代田町の市道で、渋川市赤城町勝保沢の塩谷順子さん(48)が、近くの駐車場から後進して出ようとした前橋市青柳町の鈴木ミツ子さん(81)の乗用車にはねられ

た。車は後進のまま駐車場フェンスに衝突した後、今度後進し、再び塩谷さんをはねた。塩谷さんは鎖骨骨折などの重傷を負った。

前橋署によると、駐車場に入るうとした鈴木さんが、車の位置を切り替えようと後進した際、車が猛スピードで動きだした。鈴木さんは「アクセルとブレー

キを踏み間違えてしまった。慌ててしまった」などと話しているという。事故を目撃した男性が119番通報した。

酒酔い運転容疑
代行運転手逮捕

前橋東署

前橋東署は16日、道交法違反(酒酔い運転)の疑いで、前橋市広瀬町、代行運転手、星野修二郎容疑者(59)を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は同日午前4時50分ごろ、同市朝倉町の市道上で酒に酔った状態で乗用車を運転した疑い。同署によると、容疑者認めていた。現場近くに住む男性から「車が電柱に衝突

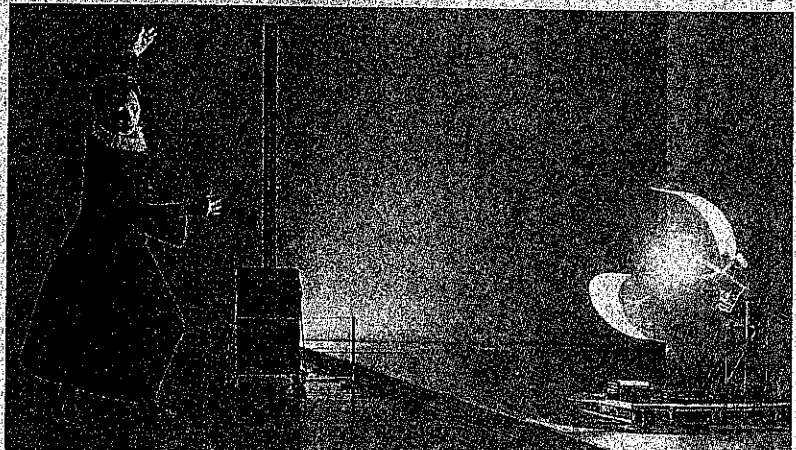
前橋

美術作家で演劇演出家のやなぎみわさんが製作に関わったロボットと俳優が共演するライブパフォーマンス「MM」が2日間にわたり、前橋市のアーツ前橋で上演された。

やなぎみわさんは「モバイル・シアター・プロジェクト」

ロボットと俳優が共演

やなぎみわさん演劇



俳優とロボットが共演するライブパフォーマンス「MM」

©撮影:木暮伸也、提供:アーツ前橋

シエクト」として群馬高専などと連携協力し、4台のロボットを製作。自身初となるロボットによる演劇に挑んだ。戯曲「ハムレットマン」などから着想を得て、生と死の混沌とした世界観を描き、観客を魅了した。

初目の公演を観劇した群馬高専の学生たちは、無事にロボットが動くとほっとした表情を浮かべ、指導した同校の平社信人准教授は「強烈的な経験だった」と振り返った。同館で6月23日まで開かれている「やなぎみわ展 神話機械」の関連イベントとして実施。問い合わせは同館(☎027・2330・1144)へ。

◆ 2019年5月22日(水)

◆ 上毛新聞

18 面

記事名: ロボットと俳優が共演 やなぎみわさん演劇

備考:

令和元年度 視察等受入リスト

R1.6.11現在

No	日付		時間	団体・名称等	人数
1	H31.5.24	金	15:00	東京藝術大学	13
2	H31.5.31	金	13:30	群馬大学教育学部美術教育講座	18
3	H31.6.4	火	19:00	近隣法人等ギャラリーツアー	1
4	H31.6.4	火	19:00	中心商店街関係者ガイドツアー	7
5	H31.6.13	木	13:00	長野県信濃美術館東山魁夷館	2
6	H31.6.13	木	11:00	武蔵野大学 水谷研究室	12
7	H31.6.16	日	12:30	前橋国際大学 奥田研究室	32
8	H31.6.18	火	13:30	県立桐生工業高等学校	39
9	H31.6.30	日	13:30	日本地域政策学会都市分科会	12
10	H31.9.5	木	10:30	中央公民館（お母さんのほっと子育て教室）	41
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
合計					177